



## 朝のウォーキング

日本証券クリアリング機構  
代表取締役社長

小沼 泰之

体力維持・向上をめざし、早朝の街なかウォーキングを心掛けている。

天気良ければ九段下の組橋（まないたばし）を起点に、靖国通り、神田すずらん通り、神田警察通りを気の向くまま東に進む。個性ある書店や飲食店など、開店前でディスプレイを覗くのみだが、想像を掻き立てられるお店が並ぶ。かつて研修出向で神保町に勤務していた時期があったが、その頃に通った喫茶店や居酒屋も健在のようだ。

所々に町名由来などの立看板があり、足を止めて読んでみる。「神保町」は江戸時代の旗本、神保家の屋敷があったことが由来。「錦町」は一色（いっしき）という名の旗本が二軒あり二色小路が錦小路に。「美土代町」は伊勢神宮に捧げるための稲（初穂）を育てる水田（みとしろ）にちなみ、「神田」も同じ故事によると解説されている。武家屋敷を中心に、商人、職人が住む町屋もあった様子。今は学校や大型複合ビルも建ち並ぶ一帯となっている。

内神田まで来ると、さらに賑やかになる。西口商店街は人の流れが多いので、一本はずれた出世不動通りを進むが、この辺りも趣深い。雰囲気のある外観の飲食店が早朝からの仕込み作業中。開店後に来てみたいものだ。

神田駅を過ぎると日本橋のオフィス街。金融機関、商業施設、事業会社などが増えてくる。市場

関係者としては、今後の金利動向も大いに気になるが、日本銀行の荘厳な建物を見ると、気持ちもなんとなく仕事モードとなる。



雨の日は別ルート。竹橋から、大手町、丸の内、八重洲、日本橋、茅場町と地下通路を渡り歩いてみる。所々つながっていないところもあるが、概ね滞れずに移動ができる。東京駅近辺は新しいビルの開発も進み、「あの会社がここに入ったんだ」と発見も多い。

職場に向かう人たちの出で立ちや所持品には時節を感じる。お子さんの手を取り学校に送っていく体のお父さん、お母さんも見かける。そのまま会社に向かうのだろうと推察するが、若い世代の居住地が都心に回帰し、働き方も変容しているようだ。また、都会の真ん中にもかかわらず数々の神社を見かけるが、朝のこの時間、意外に多くの人がお参りをされていて、日本人の信心深さを垣間見る思いだ。

朝の散策のひとつとき、いろいろな気付きを与えてくれる。